

## 主の昇天

ルカ 24・46-53

2022.5.29

カトリック高円寺教会  
主任司祭 高木健次神父

信仰宣言でいつもわたしたちが唱えてますけれども、イエス様は神の子、神様、神の御言葉だけど、わたしたちのために天から下り、人となりました。わたしたちと出会うために人間になってくださった。でも神様であることを止めたわけじゃなくて、まことの神、まことの人となりましたね。そして今日、そのイエス様が天に上げられたということを記念するわけですけど、やっぱり人間であることを止めて元の神様としてだけ天に昇られたわけではない。まことの神、まことの人として天に昇られた。それを記念するのが主の昇天の祭日です。そういうふうにして、神様の中に人間性というものが加えられて、三位一体の神様の中に人性、人間性が入りましたという、なんかちょっと教義のややこしい話ですけど、それは昇天を通して実現したのだという伝統的な見方になります。

なんでこんな小難しい話から始めたかという、神様は人類とご自分との繋がり、わたしたちと出会うために、まず自分のほうから変わる。ご自分の中に、イエス様を通して、三位一体の交わりの中に人間性というものを受け取られた。つまり、わたしたちと出会うために、ご自分のほうからまず自分が変わるということを受け入れられた方なんだということですね。

自分が何も変わらなくて、わたしたち人類のほうにだけ変ることを要求する方ではない、ということですね。だから、そんな神様、まず出会うためにご自分のほうから変わることを受け入れられる神様だから、わたしたちも神様と出会って、影響を受けて、わたしたちも変わっていくことができる、ということをお考えするのが、来週の聖霊降臨の祭日でありますけども、今日の主の昇天ではまず神様のがわが、イエス様を通して、人間に出会うためにその中に人間性をとられたという伝統的な言い方を通して、神様のがわがわたしたちよりも先にわたしたちのがわに歩み寄り、そしてご自分の中にご自分が変わるということをおされたんだということですね。

先週は「世界広報の日 World Communications Day」だったんですね。それ

で、教皇様はメッセージの中で、「神様はわたしたちに耳を傾けてくださる方で、相手に耳を傾けるときに、わたしたちは神様に似た者となるのです」という教皇様の言葉を味わったんですけど、同じように、誰かと出会うために自分のがわが変わる、あるいは、誰かと共にあるために自分のがわが変わるということを受け入れる、あるいは、そのことができたときに、わたしたちは神様に似た者となるんだと言うことができますと思います。

例えば、子育て中のお父さんお母さんが「赤ちゃんや子どもたちを通して、自分が育てているようだけど、自分のがわが育てられた、変えられた」というようなお話をよく聞きます。そのときに、お父さんお母さんが子どもたちのために自分のがわから受け入れる、変わっていく。それがまさに今日、主の昇天で記念している神様の姿ですね。神様と似た者となっていると言っているじゃないかと思います。

自分のがわは何も変わらないで、そして、わたしたちのほうに一方的に変わる、何か分からないことを要求してくるというような、そんな神様じゃないんですけど、なぜか世の中の的には神様ってそういう方のように誤解されているというところがあるのは何故でしょうね。神様の看板で話したり行動したりしている人間の影響があるのかなという感じがします。わたしも気をつけなければいけないと思います。

皆さんはどうですかね？ ご自分のそういう他の人とのかかわり方ということを考えて、やっぱりいろんな人と出会っていることを通して、心の中に相手の場所ができて自分のがわが変わっていくことを受け入れるか、それとも一方的に周りの人に自分に合わせて変わっていくことを要求するのか、振り返ってみる良い機会でもあります。

わたしたちが、他の人に耳を傾け、そして相手に歩み寄って、あるいは相手と出会うことを通して、自分も変わっていくんだということを受け入れる。そのときにわたしたちは神の似姿に創られた人間性、神の似姿なんだということを変更して思い起こしながら、それぞれがお互いの繋がりの中で豊かにされていく、その恵みに招かれているんだということをおもひ起こして、互いに豊かにし合うということに心を開くことができますように、今日、まことの人、まことの神として天に昇られたイエス様の恵みに助けを願いたいと思います。